

ADULT
ONLY

N

3隊長退廢落魄

N

Santaichou Taihai Rakuhaku

前戲

「今日からこれを着ろ」

売春婦にまで落とされたこの身だったが
目の前にあるスリッパが何なのか
それを着る事が何を意味するか
忘れようもなかつた……

そして、彼らの背後に何があるのか
今更悟った私は、快楽と愛欲に溺れた
自分の浅ましさに、改めて深い悔恨にた
苛まれた……



「御主人様、どうか、それだけは
それだけは許してはいただけません
ししょうか」

膝まづき、自分を犯し
調教した男に慈悲を求める

管理局を去つて売春婦に
落ちた身であつても

このスリツを着るといふ事は
明らかに管理局の敵対者になるといふ事。

大切だからこそ残してきた人達、その人達に
間違いなく絶望を与える事になる。

それだけは…それを回避する為なら…

「おチンポ様がイラついて
らつしやるのでしたら
即座にこののはめの巨乳で
御奉仕させていただきます！」

「いっばいっばい
御奉仕させて
いただきますから！
ナンパイズスリツを
着る事だけは
どうか！
他の事なら
なんでも！
なんでもさせて
いただきますから！」

「奴隷が生意気に意思表示するな
罰として今日は玩具で遊んでろ」

俺に抱かれまくった身体じゃ
玩具じゃイケないだろうがな
久々の催淫バインドで性感高めてやるから
絶頂お預け状態をたっぷり味わいながら
じつくりと奴隷として
応えるべき答えを考慮ろ なのは」

毎日男に抱かれ慣れた
この体に最もつらい仕置きは
抱かれない事。
拘束放置され
乳首、おまんこ、アナル
敏感な所を微妙な刺激で
延々と苛まれる内に
男の狙い通り、私の中の
優先順位は、肉欲に
塗りつぶされていった...

イキたい…!!

乳首吸って…!!

おまんこ
突いて…!!

アナルも
思いつき
犯して!

オトコ…!!

オトコが
欲しい…っ!

「さあ、なのはのいい加減
考えもまとまったろ」

「奴隷としての答えを聞かせる」

「なのは
ナンのバズバズバズ着たいです
お願ひします！ツツ着させて下さい
エナツチバシりたいです！」

「さっきは駄々こねて
申し訳ありませんで
魔導士やめたい
くなのしやいっはいいツチなり
だのしやいっはいいツチなり
ますから」

「最初からそう言え
ブタが！」



「今日もたっぷり俺の腕の中で愛してやるぜ　なのは」

「最高だ」「カワイイ」「たまらねえ」「クソエロい」
「愛してやる」
私が従順になる褒め言葉を常に発言に織り交せて
私を常にその気に駆り立てる…

ユーノくんは…言ってくれなかつた…な…
だから…反応しちゃうのかな…

オ
チ
チ
チ
チ

「いちらもどうぞ…」

ポーズを変えて
自分から恥ずかしい所を
見てもらう

「クソエロいぜ　なのは
こんな女体、童貞が目の前にしたら
それだけで精液噴き出しちゃうんじゃないか？」

童貞：ユーノくんはこんな私を見たらなんて言うだろう

もう私は童貞のユーノくんとは比べ物にならないほど
セックスを憶えてしまった…
ユーノくんはこんな私を軽蔑するのかな…
それともこの人の言う通りその場で精液噴き出しちゃうのかな…

そら！まずは御褒美だ！
浣腸食らえ！
てめえの大好物だ なのは！

うオおおツ?!

従順に突き出していたお尻に
不意打ちの浣腸注入！

着用で張りつめていたスリツは
浣腸器の突入であっけなく破れる程の強度

アナルで感じる冷たい完調液の注入感と同時に
このスリツが着用者を辱める為のスリツである事を実感した

複数本の浣腸注入の後の
巨チンによる鬼突き——！

ただでさえ私のおまんこでは
ギチギチのサイズの巨チンなのに
浣腸で脱糞をこらえて力んでいるに
余計に巨チンを締め付けてしまう

思惑通りの私の反応に気を良くして
突き上げは更に激しくなる

ヤッバツ！

チンポ
やヴあッ！

ガッガッガッ

奴隷である私は勝手に脱糞してはならない
主人である彼の許しが出た時
私、変態マゾブタ売春愛奴 高町なのは
この苦しみの向こうにある
快楽を貪れるのだ

オラ！孕め！
なのは！

ハイ！好き！
中出し！大好き！
子作りセックス
ときめいちやうのオ！

身動き出来ない体勢に押し倒されて
逞しい肉根に押し広げられた股間の最深部に
更に逞しさを誇示する男らし過ぎる濃密射精。

便意をこらえながら
開脚絶頂で射精チンポを締め付けまくって
メスとしての服従をオスに示す

御褒美——御褒美…下さい！

下痢グソ
出します
よし、
出せ

「グソを垂れる際は
笑顔で挨拶しろ」
「驕られた通りの恥知らずは
御挨拶」

うおお！おおお
おおお！出る！グソで！
グソでイクウ！グソで！
グソでイクウ！グソで！

グソ

教え込まれた脱糞アクメの快感
完璧におまんこ化された私のアナルは
普段の排泄行為だけでも欲情し絶頂する

もう私は時空管理局の
教導官でも魔導士でもない
ただのセクサドール。まさに売春機人と
呼ばれる相応しさを感じた

脱糞アクメで敏感になつたアナルを無慈悲に姦通していただきます。ふしだらなケツを持ち上げ、御主人様に自分が如何に忠実な売春機人であるかを示し、逞じ過ぎる肛姦ピストンを受け止める。

おほっ！

ケツツ！

ケツすげッ！

おおおおお…
ザーメン、ケツに
キクウ〜〜〜

ツイインテイルを屈辱の中で
手綱の様に掴まれ、アナルの最深部に
脱糞したばかりのアナルの最深部に
大量のチンポを放出された事に
大量の手綱の様に掴まれ、アナルの最深部に
奴隷としての喜びを味わい
絶頂を楽します。



恋人同士のように抱き合いながらのセックス
股間を結合し、巨乳を揉みしただから
舌を絡めたディープキスをしながら
唾液を貪り、愛を捧げる。

好き！
愛しています！！

高町なのはは
御主人様を
愛しています！

愛を捧げれば捧げる程
御褒美フアツクをじていただけ
ナンパのどこにもない。忌避感など
もう頭のどこにもない。どう抱かれるか
今夜も夢中になるか。どう抱かれるか
どう気に入られるか。支配されていた
男を欲する牝の思考に支配されていた

「なのはよオ、この一部始終
いつも通り録画保存してる訳だけどよ
無限書庫の秘書長やつてるゴとかに
言いたい事あったらここで言っときな
いつか見てくれる機会があるかもしれねーぜ」

「ハイ、御主人様」

「ユーノくん
今日もなのは
おまんここんな
真つ赤になるくら
夢中になつてセツクス
しまくつちやつた

今日また赤ちゃんと
仕込まれちゃったと
思うんだけど
ユーノくんは
この動画
見ながらオナニで
悔しがらオナニで
御精子無駄撃ちしててね」

めくるめく屈服セックスの快樂の中で
この姿を見られる恐れより
見られたいと
期待の方が大きくなっていた

オナニ



BOBCATERS

奥付
誌名：3隊長退廃落魄—前戯—

発行日：2022年8月
サークル：BOBCATERS
著者：波紋愛
<http://aria.saiin.net/~ng-ng/>
MAIL: ng-ng@aria.saiin.net
印刷所



お買い上げ
ありがとうございます。

注意

本書を無断転載
アップロードをすると
制作費がなくなって
カラー本が作れなくなって
続編製作の
目途が立たなくなるので
本書の内容の無断転載
アップロードを禁じます。

無論、未成年の購入も
禁止します。

My doujinshi publishing
group, Bobcaters,
has a stated policy of
discontinuing publishing
of a doujinshi series
when a work is uploaded
for public consumption
without my permission.
Please do not upload
my publications if you
wish to support my
efforts to publish new
and interesting
doujinshis.

Thank you.